

2022年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	吉例浮世絵大公開！江戸の滑稽—幕末風刺画と大津絵— 田河水泡コレクションを中心に			担当者名	大久保純一、村瀬可奈		
会期	2022年3月12日(土)～4月10日(日)			開催日数	26日		
協賛・後援・協力	なし						
巡回館	なし						
展覧会概要	浮世絵には屈託のない笑いから福德への願い、世の中への不安や不満まで、人々の感情がユーモラスに描き表されたものが数多くある。本展では、漫画『のらくろ』の作者・田河水泡(たがわ・すいほう)が収集したコレクションを中心に、当館が収蔵する浮世絵の戯画や風刺画、大津絵など約140点を展示。幕末から明治にわたる激動の時代に、世相を描かずにはいられなかった無数の絵師たちの滑稽表現と、それを享受した民衆の本音を読み解いた。展示作品の多くは2020年度に町田市立博物館から移管された作品群であり、本展はその披露目の意味も込めて開催された。						
ねらい・対象	幕末から明治にかけての混乱の時代に制作された風刺画や戯画には、地震や感染症、戦争といった現代社会にも通ずるテーマが含まれている。国芳や広重、清親をはじめとする人気浮世絵師たちの機知に富んだ滑稽表現をとおして、当時の人びとの立場や思いを読み解く展示とした。またタイトルに冠した「吉例浮世絵大公開！」は、桜の開花シーズンに合わせて過去に数回開催されてきた展覧会シリーズで、今回も芹ヶ谷公園への来園との相乗効果をねらった。						
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数		
	講演・落語	3月13日(日)	田河水泡と「滑稽」—講演と落語—	新美琢真(川崎市市民ミュージアム)、三遊亭ぼん太(落語家)	60人		
	スライドトーク	4月3日(日)	館長によるスペシャルスライドトーク ※ギャラリートークから変更	大久保純一(当館館長)	42人		
	プロムナード・コンサート	3月19日(土)	ピアノとフルート 笑顔色づくハーモニー	笠原陽子(フルート)、 武原さつき(ピアノ)	155人		
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日			
	800円	400円	無料	・初日:3/12 ・シルバーデー(65歳以上無料):3/23			
	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	3,648人	2,104人	5,752人	5,202人	217人	333人	—人
	目標値	3,214人					
主な収入	観覧料収入		図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源		
	2,523千円		千円	66千円	千円		
事業経費	<ul style="list-style-type: none"> ・講師謝礼 45千円 ・協力謝礼 110千円 ・作品額装委託料 498千円 ・ポスター等作成委託料 972千円 ・ディスプレイ作成委託料 506千円 ・設置・撤去委託料 460千円 			2,591千円			
主な広報・取材等の講評	【テレビ】NHK Eテレ「日曜美術館 アートシーン」、イッツコム地元NEWS、多摩テレビ「TTV-NOW」【新聞】読売新聞、神奈川新聞、産経新聞、毎日新聞、しんぶん赤旗、新美術新聞、タウンニュースほか 【雑誌】『サライ』、『小さな蕾』ほか 【ウェブ】ウェブ版「美術手帖」、アートアジェンダほか						
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
	204件	3.5%	32%	58.8%	企画の内容	展示作品	展示の仕方等
					99%	96.4%	87.6%
	主なご意見	別紙のとおり。					

工夫と反省点、 改善方法	予備調査・ 作品選定	2020年度に当館へ移管された市立博物館旧蔵品を中心に作品140点、資料12点が選定された(内、田河水泡コレクションが100点、その他博物館旧蔵品が49点、版画美術館収蔵品が3点)。歌川国芳らの戯画から、鯉絵、はしか絵、大津絵、あわて絵、戊辰戦争子ども遊び絵、そして小林清親の戯画まで、全7章で構成した(1章 戯画の流行、2章 大鯉暴れる(鯉絵)、3章 流行り病、4章 大津絵、5章 大津絵と江戸の戯画、6章 幕末動乱と戊辰戦争、7章 明治の戯画)。展示室の最後には田河水泡の『のらくろ』や『滑稽の構造』などの著作や写真を展示し、コレクションが収集された経緯も紹介した。また準備にあたっては、鯉絵を専門に研究する國學院大學大学院の石隈聡美氏に作品整理および解説執筆の協力を依頼した。
	リーフレット・ ポストカード ブック	各章の解説と図版、年表、文献案内を収録した、無料配布のリーフレットを作成した。過去の収蔵品展では、冊子(16頁、3000部)を作成することが多かったが、今回はより簡易なA3二つ折りのリーフレットとし、印刷部数を増やすことで(5500部)、会期末まで希望者全員に配ることができた。また、図録の代わりとしてポストカードブックを作成し、ショップで販売した。
	広報	26日間という短い会期に集客するため、ポスター、チラシはインパクトの強さを重視し、国芳の戯画を全面に出したカラフルなデザインを採用した。広報手段としては、広報物の配布・掲示のほか、プレスリリースの発送、広報まちだへの掲載、当館Twitter、Instagramへの投稿等を行った。また、展示作品は全点撮影可能(ただし田河水泡の著作類を除く)とした。SNSへの投稿数も多く、紹介ツイートのなかにはいいね数が600以上ついたものもあった。作品自体のイメージの強さや、没後160年を迎えた国芳への人気の高さが功を奏し、人々への周知へ結びついたと考えられる。
	ディスプレイ	広報印刷物に合わせ、ディスプレイもポップで親しみやすいデザインを採用した。一方で作品内容には難解なものも多く、全点に100~150字程度の解説をつけ、キャプションは文字サイズを大きくするなど読みやすさに配慮した。館長を中心に執筆した解説は大変わかりやすいと好評で、図録を希望する意見もあった。また、試みとして大階段横の壁面を大きく使い、展覧会タイトルとメインビジュアルを大きく引き伸ばしたカットティングシートを貼ったところ、撮影スポットとしてSNSへの投稿等に活用する方が多く見られた。階段で立ち止まってしまうの撮影となるため、安全性を考慮しつつ、今後も実施を検討したい。
	展示撤去	展示撤去ともに大きな問題なく実施された。大津絵の展示では企画展示室1の壁面ケースを使用した。当館のケースは奥行きが深いため、作品の細部が見づらいとの意見もあった。今後、掛軸を展示する際はケース内の展示方法を検討したい。
	イベント	「田河水泡と『滑稽』—講演と落語—」は、マンガ研究者である新美琢真氏による講演と三遊亭ぼん太氏による落語の2部構成であった。落語の上演にあたっては、著作権者の承諾のもと落語作家時代の創作落語(新美氏より資料提供)から演者が2席を選んで口演した。田河水泡の漫画家、収集家、落語作家といったさまざまな面を知ることができたとアンケートでも好評だった。館長によるスライドトークは当初ギャラリートークを予定していたが、コロナウイルスの感染状況を踏まえ、参加者間の距離が確保できるスライドトークへと変更した。また関連イベントとは別に、2月と3月に戯画と風刺画をテーマに館長講座を実施し、今後も講座の開催を希望する声が多く聞かれた。
その他特記事項	・各種の割引制度を導入した。割引内容と利用者数:リピーター割引(9人)、ウェブ割引(451人)、タクシー割引(6人)、パスポート割引(2人)、シェアサイクル割引(0人)	

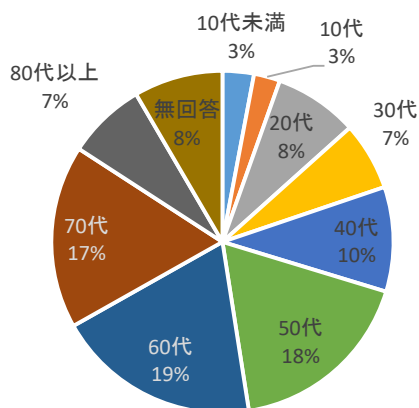
「江戸の滑稽—幕末風刺画と大津絵—」展

アンケート集計結果

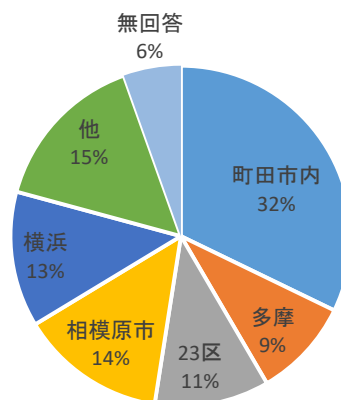
開催期間：2022年3月12日（土）～4月10日（日）

回答者数：204人（総入館者数：5,752人 アンケート回収率：3.5%）

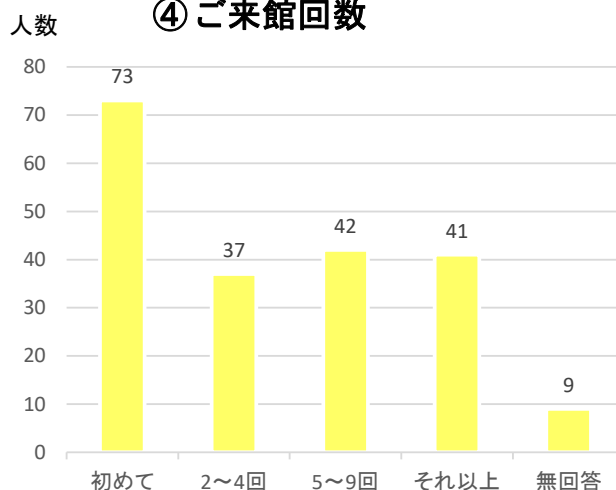
① 年齢層



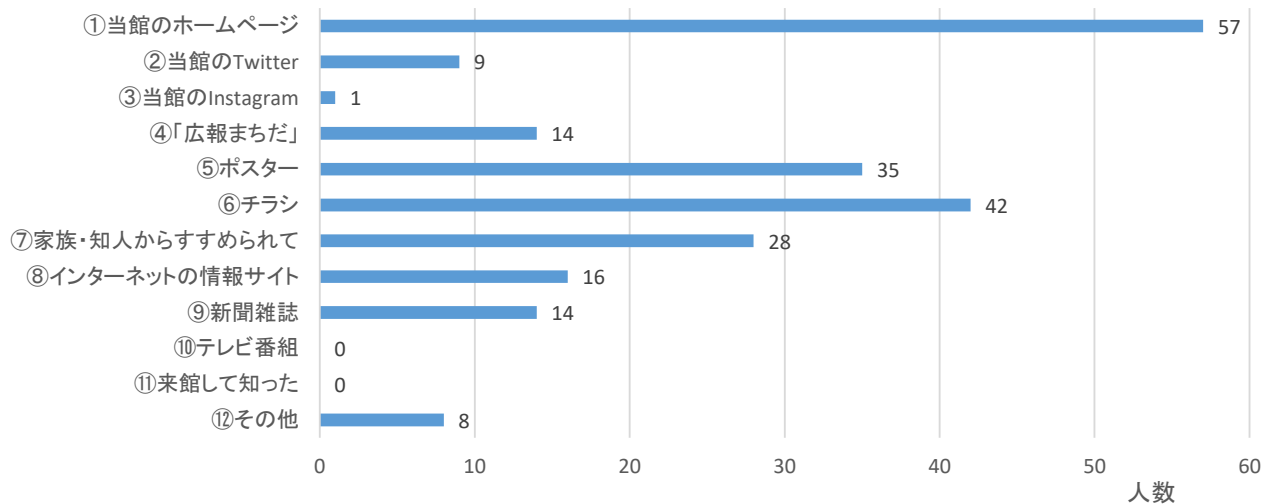
② お住まい



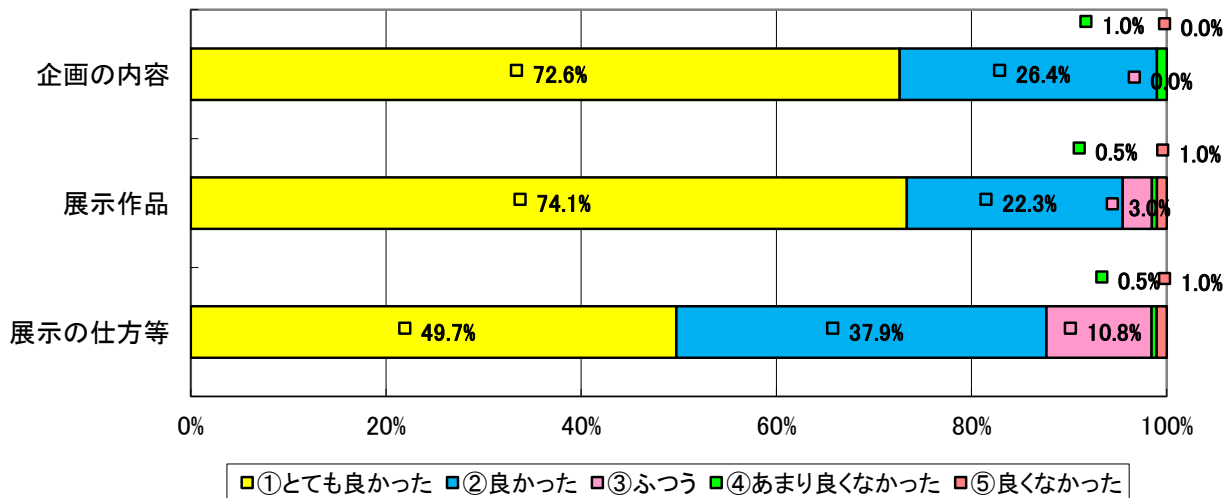
④ ご来館回数



④ 展覧会情報の入手



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

◆企画の内容

- ・初めて知ることが沢山あっておもしろかった。笑いに変えて表現する文化が良いと思った。
- ・ところどころ笑えるところがあり、浮世絵に対してのイメージが変わった。
- ・戦争など暗いニュースが多いなか、心が明るくなった。
- ・政治や社会に関心があり、人々が社会をどうとらえていたかが見られて良かった。
- ・市民から見た世情の浮世絵を見て、現在でも変わらないと思う作品があり、妙な親近感が湧いた。
- ・時代やテーマごとに分けられていて見やすかった。
- ・田河水泡先生がこんなに良いコレクションをしていたとは知らなかった。
- ・ちょうど「マー姉ちゃん」の再放送が終わったところで、田河水泡さんの人柄に触れることができ良かった。
- ・展示数が多く見ごたえがあった。階段の大きなシールなど映えスポットも良い。

◆展示作品

- ・国芳、芳年、大津絵がたくさんみられて眼福。
- ・展示品が多く、なかでも河鍋暁斎や月岡芳年が好きなので見に来て良かった。
- ・地震やコレラ、麻疹の作品など、タイムリーだと思って面白かった。
- ・見たことのない鯉絵が見られて良かった。

◆展示の仕方やキャプション

- ・あまり知識のない人にもわかりやすくかつ専門的なキャプションが大変良かった。キャプションを読む楽しさが堪能できた。
- ・キャプションに作品の意図やテーマがはっきりと書かれていることで理解が深まった。
- ・故事や歌舞伎、流行りの事柄などいろんな事を知って初めて風刺画を楽しめるのだと知ることができ、とても良かった。
- ・浮世絵を間近でみることでとても楽しかった。大津絵のパロディもパネルの説明で分かりやすかった。
- ・作品同士の間隔が丁度良く、隣の人を気にせず一つ一つゆっくり観ることができた。
- ・導線と床の矢印が分かりやすかった。
- ・やむなしかもしれないが照明が暗く細部が見えなかった。
- ・展示室にもう少し椅子が欲しい。

◆その他、感想・要望など

- ・のらくろの作者に興味があったので作品を見てみたい。
- ・シルバー無料が有難かった。
- ・図録が無いのがとても残念。
- ・スマホのシャッター音が気になった。美術館用シャッター音を開発してほしい。
- ・館長の浮世絵講座とても面白かったので今後も続けてほしい。
- ・これからも子どもと楽しめる企画を開催してほしい。
- ・駅から徒歩で少し分りにくかったが、「けやき」で食事ができて良かった。
- ・駅からの無料バスを運行してほしい。
- ・カードやWi-Fiが使えるようにしてほしい。